

【樹木・草花の部屋】

オオイタビ（クワ科イチジク属 *Ficus pumila*）

和名；オオイタビ（大崖石榴） **別名**；オオイタビカヅラ **英名**；Climbing ficus, Creeping rubber plant。イラクサ目 常緑ツル性木本

分 布； 東アジア南部

花言葉； 知識

花の色；



⇒ 写真－１ オオイタビの樹形

撮影日：２０１２年１１月３０日

撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて

撮影者：Tさん

珍しい実を見つけました。オオイタビの実です。実はイチヂクそっくりです。家庭の石垣に這わせたものもみられます。

温暖な、それも海にほど近い場所に自生するつる性の低木で岩や崖地の上を這う性質があります。

写真－２ オオイタビの枝葉 ⇒

撮影日：２０１２年１１月３０日

撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて

撮影者：Tさん

公園に来られた方からの問い合わせで、発見。公園職員の方が教えてくださいました。ツル性の生垣では、よく見られますが、実のなっているところは、珍しいそうです。

イヌビワと同じように、オオイタビコバチによって受粉され、またその寄生により雄花序が果実のようにふくれるそうです。



【樹木・草花の部屋】

写真-3 オオイタビの実 ⇒
撮影日：2012年11月30日
撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて
撮影者：Tさん



そばにある赤い小さい実は、マサキの実です。オオイタビの名の由来は、イタビカヅラより花萼(実のようなもの)が大きいからだそうです。

＜ちょっと一言＞

オオイタビは、暖地の生息し、気根（地上の茎や幹から空気中に出る根）を出して、ほかの木の幹や岩に這い登っていきます。

詳しく見ると(ヒメイタビ、イタビカヅラと比べてみると)

葉は互生し、長さ 4～10cm の楕円形～広楕円形。先端は鈍く、基部は円形で、全縁。裏面は灰白色で、脈が浮きでる。葉柄は長さ 1～2.5cm。

はじめ短い伏毛が密生するが、のちにやや無毛になる。幼木の葉によく似たヒメイタビの葉の裏面脈上や葉柄には開出毛（表面から直角に近い角度でついている毛）があります。オオイタビではあまり目立ちません。

葉腋に球形または倒卵形の花囊（かのう）を 1 個つける。雌雄異株。果囊（かのう）は緑色だが、熟すと紫色になる。花期は5～7月。

オオイタビの葉には 2 型あり、成木の葉に比べて、岩に張り付いた幼木の葉は著しく小さい。

ちなみに、「イタビ」とは「イヌビワ」の別名です。

この果囊が、どう成熟し変化するか、楽しみですね。